

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	山越栄太郎	学校名	野洲市立 中主小学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6年1.2.3組（103名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2023年11月～12月 本時11月15日（水）5校時		

## 【実施概要】

1. 単元名（活動名）：世界に目を向けよう ～地球市民の一員として～					
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 世界には学校に通えない子どもがいることを知り、その原因である児童労働や教育環境、差別などの課題について調べる活動を通して、持続可能な社会や世界の実現のために自分が「今できること」と「将来やりたいこと」を具体的に考えることができる。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	日本や世界の教育に関する諸課題について知り、それらとSDGsとの関わりや世界の国々の状況を理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	教育に関する諸課題への関心を持ち、それらの課題についてSDGsと関連付けて考えることを通して、課題解決に向けて自分ができることを考え、考えや根拠をわかりやすく表現している。			
	③学びに向かう力	調べたことをもとに課題の解決に向けて取り組むことや、友だちの発表を聞くことを通して、自分の生活と世界の諸課題との関りを見直そうとしている。			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b></p> <p>SDGs が広がり、達成に向けて日本や諸外国が動いている昨今、私たちは地球市民として地球のため、地球に生きる人々のために行動することが求められている。小学生も SDGs や世界で起こる諸課題について理解し、自分たちにできることを考える必要がある。そのためには、世界で起きる諸課題が他人事になってはいけない。</p> <p>本単元では、学校に行けない自分と同年代の子どもたちがいるという事実を知り、その背景となる様々な課題について調べていく。その中で、世界の諸課題と自分との関りに気づき、意識することで、持続可能な社会や世界の実現のために自分ができることを考え、行動する力を育てることができると考えた。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>新しい学習に対して意欲的に取り組む児童が多く、自分の考えを持つことができているが、コロナ渦においてそれらを他者に伝える活動や行事の経験が少なく、表現したり発表したりすることへの苦手意識がある。また地域的に外国人が少ないことや、本校にALTがいないことなどから諸外国との接点が少なく、異文化に触れる機会も少ない。SDGsに関する学習も数人の児童が自主的に行った程度である。そのため国際的な問題などについては規模が大きすぎて想像しにくく、課題意識や自分との関係を感じることができていない。「自分とは関係のない遠いどこかの国で起きていること」程度の認識である。そこで、同年代の子どもたちを題材として取り上げることで、世界の諸課題を身近に感じられるようにしたい。</p> <p><b>【教材観】</b></p> <p>自分たちと同年代の子どもたちの教育の現状をテーマにすることで、課題を身近に感じられると考える。学校にいけない子どもたちの現状から、その背景にある様々な課題についてSDGsと関連付けて調べていくことで、理解を深めていく。本教材を通して、SDGsや地球規模の課題に目を向けるきっかけを作ることで、それらの課題が様々なものと結びついていること、自分と無関係ではないということに気づき、自分の行動について考えることができると考える。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>毎日学校に来て勉強したり友達と遊んだりすることが、当たり前ではない人々が世界中にいるという事実を知ること、その背景に地球規模で起きている様々な課題があることに気づき、それらに対して課題意識を持たせることが大切である。世界の諸問題に触れ、今の自分たちの生活が世界ではあたりまえでないことに気づくことができるようにしたい。その上で、SDGsとの関連を考える活動を通し、自分とのつながりを意識することで自分に何ができるのかを考え、日々の行動に移せるようにしたい。</p>
---	--

## 7. 単元計画 (全7時間)

時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース活用はここに記載
1	世界の国々や人々の現状について知り、たくさんの課題があることを知る。 世界中で起こる諸課題について学習していく見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs の概要について知る。</li> <li>「世界がもし 100 人の村だったら」を体験し、様々な地球規模の課題について知る。</li> <li>世界の非識字率について知る。</li> </ul>	「世界がもし 100 人の村だったら」
2 本時	学校にいけない子どもたちがいる現状を知り、その背景について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>同年代の子どもたちの写真を見比べ、違いについて考える。</li> <li>なぜ学校にいけないのか、原因について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童労働に関する写真</li> <li>ワークシート</li> <li>「学校にいきたい！」</li> <li>「学校へ行けない世界の子どもたち」</li> </ul>

3	「学校に行けない理由」と SDGs との関連について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で考えた、「学校に行けない理由」を SDGs と関連付けて整理し、一つ選び課題について調べていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>「学校に行きたい！」</li> <li>「学校へ行けない世界の子どもたち」</li> </ul>
4～6	世界の課題と自分との関り、できることについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ課題について詳しく調べる。</li> <li>課題と自分との関りを考え、課題に対して自分が「今できること」と「将来やりたいこと」を具体的に考え、「地球市民宣言」としてまとめる。</li> </ul>	
7	他の課題についての発表を聞いて、課題と自分との関りや、他にもできることがあることに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地球市民宣言」発表会を行う。</li> <li>単元のふりかえりをする。</li> </ul>	

### 8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：学校へ行けない世界の子どもたちの現状と、その背景にある課題を知る。

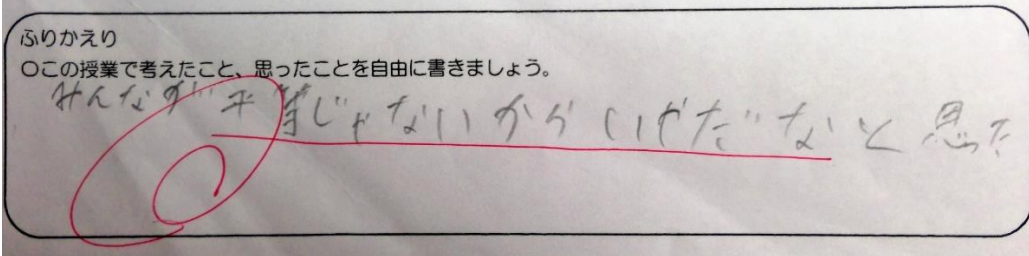
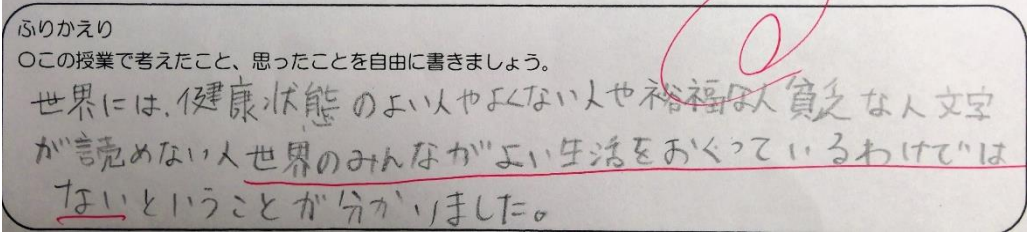
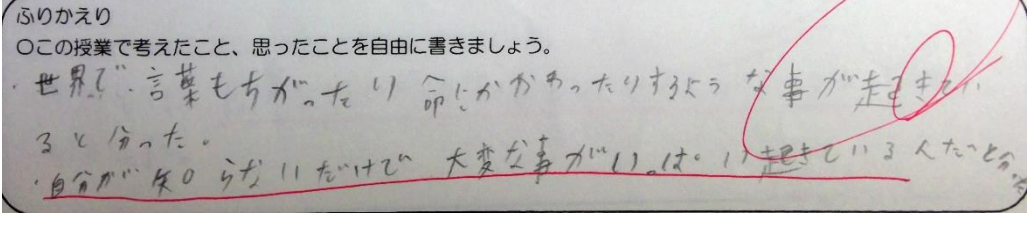
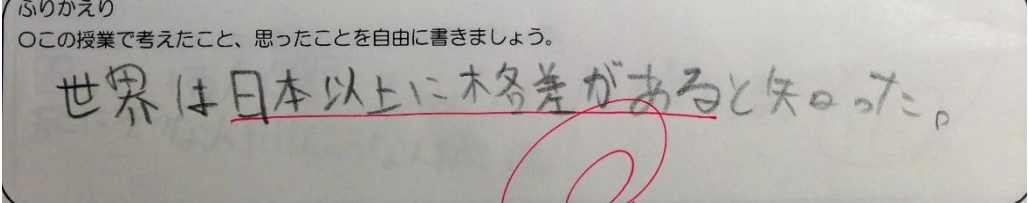
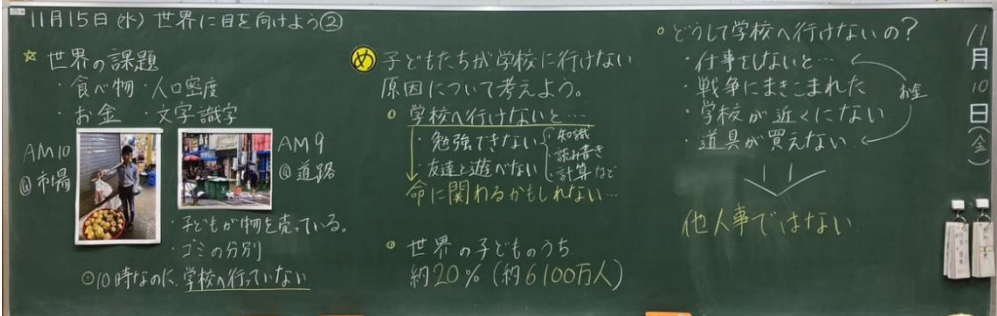
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<b>導入</b> (15分)	1 前時の学習を振り返る。 「前回の授業でどんなことがわかりましたか。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>世界にはいろいろな問題がある。</li> <li>「例えば？」</li> <li>富の格差</li> <li>識字</li> </ul> 「様々な課題がある中でも、今日は SDGs 4 番の教育に関する課題について学習します。」  2 学校に行けない子どもの現状を知る。 「この写真はカンボジアの朝 10 時の様子です。何か気づくことはありますか？」 <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが物を売っている。</li> <li>ゴミの分別をしている。</li> <li>10 時なのに学校へ行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球規模の様々な課題について想起させる。</li> <li>児童労働により、学校にいけない子どもの写真を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校にいけない子どもの写真</li> </ul> 
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         子どもたちが学校に行けない原因について考えよう。                     </div>			
<b>展開</b>	3 学校へ行くことの価値を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に通うことが</li> </ul>	



	<p>める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界中の子どもたちの内、約 20% (約 6100 万人、5 人に 1 人) が学校に通えていない。</li> <li>その原因は貧困や戦争、差別など様々である。</li> <li>これらの問題は日本や世界の人々の生活と関係している。</li> </ul> <p>「今日学んだこと、考えたこと、思ったことを自由にふりかえりましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの課題を SDGs と関連付けて調べ、自分にできることを考えていくことを伝える。</li> </ul>	
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <p>世界の子どもたちの現状を理解し、その背景にある課題について考えることができたか。(ワークシート)</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元のまとめとして一人ひとりが、世界の諸課題のために具体的にどのように動いていくのか、を「地球市民宣言」として発表する。</li> </ul>			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して校内の先生方に授業実践を参観してもらい、アドバイスをいただく。</li> <li>同学年の先生方にも同じ授業実践をしていただき、国際理解教育を広げていく。</li> </ul>			

## 【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs をはじめ、国際理解、世界の問題などに触れる機会がこれまでなかった子どもたちが、どのような導入の仕方をすれば、世界のことを自分ごととして捉えられるかを考えることが難しかった。</li> <li>積み上げがない分、広く浅く学習してほしいと思い単元を計画したので、課題がぼんやりしてしまった。また本時では情報量が多く、一方的な授業になってしまった。</li> </ul>
13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校へ行けない理由」や「何%くらいの子どもが学校へ行けていないか」など、子どもたちの予想に対して、予想と違ったところをあえて取り上げて示すことで、より現状が身近に感じられるようになったと思う。</li> <li>学校へ行けない子どもの苦しい現状を取り上げて題材としたが、「学校へ行けない」＝「不幸」とならないように、笑顔の写真など、幸せな様子も伝えていけばよかったと思う。</li> </ul>

<p>14. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界がもし 100 人の村だったら」を単元のはじめに実施したことで、それ以降は世界の諸課題について子どもたちがイメージしながら学習を進めることができた。</li> <li>・自分たちと同じ年代で児童労働によって学校へ行けない子どもの例を示すことで、多少ではあるが、問題を身近に捉えることができ、「他人事」感が減った。</li> <li>・調べ学習を通して子どもたちが様々な課題について知見を広げ、これからの自分の生活に関して前向きな考えを持つことができた。</li> <li>・世界で起きている問題の改善や解決に向け、自分との関りを考えたことで、子どもたちが自分にもできることがあるという意識を持つことができた。</li> </ul>
<p>15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時「世界がもし 100 人の村だったら」ふりかえり</li> </ul>     <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時(本時)板書 ふりかえり</li> </ul> 



ふりかえり  
 ○学んだこと、考えたこと、思ったことを自由に書きましょう。  
 世界の子どもたちが学校に行けないことは自分にも関係していることが分かった。世界の子どもたちが学校に行けるようにするにはどうしたらいいだろうと思いました。

ふりかえり  
 ○学んだこと、考えたこと、思ったことを自由に書きましょう。  
 私たちの生活は、世界中の人に支えられていて他人事ではなく、地球市民の一員として世界の問題について考えようと思いました。

ふりかえり  
 ○学んだこと、考えたこと、思ったことを自由に書きましょう。  
 「他人事ではない」という言葉を聞いて確信を持つことができました。私たちは世界中の人々から支えられているから私たちが世界中の人々を支えたいと思いました。

ふりかえり  
 ○学んだこと、考えたこと、思ったことを自由に書きましょう。  
 学校に行けない人にもどんな理由があっても、学校に行けない人は一人もいてはいけないと思った。

・第6時 地球市民宣言

**地球市民宣言**

私は SDGsの 11番について考えました。SDGsの 11番に関係して、いま世界では

必要以上の食料を輸入し、3分の1を捨てていることが多かったり学校に行けない理由になっている

という問題が起こっています。/という課題があります。

これらの問題/課題を解決、改善するためには

食べきれない食品を買いすぎないこと  
 食料を減らすこと  
 が必要/大切です。

そのために、私は地球市民の一員として、  
 (前回の学習で考えた、①今できること ②大人になったら実践したいことを書こう！)

食料を減らし捨てることを  
 食料に余裕があるのは買わないという食料を減らすこと、  
 として  
 大人になったら食料を減らすには、環境に  
 いいし、そして人にもいいことに必要な生活  
 をします!

**地球市民宣言**

私は SDGsの 11番について考えました。SDGsの 11番に関係して、いま世界では

大量のごみが出る

という問題が起こっています。/という課題があります。

これらの問題/課題を解決、改善するためには

3R(リデュース、リユース、リサイクル)を  
 必要なものを減らす  
 食品ロスを減らす  
 モノを長く大切に使うこと  
 が必要/大切です。

そのために、私は地球市民の一員として、  
 (前回の学習で考えた、①今できること ②大人になったら実践したいことを書こう！)

今はとくに、食品ロスを減らすこと  
 モノを長く大切に使うことを心がけています。  
 大人になったら、家とかで、ゴミを減らすように、  
 3R、必要のないものを減らす、食品ロスを減らす、  
 モノを大切に使うこと  
 をします!

### 地球市民宣言

私は SDGsの 10番について考えました。SDGsの 10番に關係して、いま世界では 子どものいじめや障がい者への差別をなくす、

という問題が起こっています。という課題があります。

これらの問題/課題を解決、改善するためには

ほかの人が自分とちがったり自分がほかの人とちがうのはあたりまえのことだからみんながそのちがいをみとめあうことが

が必要/大切です。

そのために、私は地球市民の一員として、  
(前回の学習で考えた、①今できること ②大人になったら実践したいことを書く)

みんなのちがいをみとめあう、

こま、ている人がいたら声をかけてたすけてあげること

をします!

### 地球市民宣言

私は SDGsの 13番について考えました。SDGsの 13番に關係して、いま世界では、二酸化炭素を出すことによって、オゾン層がやがれ、気候変動がおき、災害がおきて、人々の命がなくなってしまう

という問題が起こっています。という課題があります。

これらの問題/課題を解決、改善するためには、一人一人が自分から出来ることをすること

が必要/大切です。

そのために、私は地球市民の一員として、  
(前回の学習で考えた、①今できること ②大人になったら実践したいことを書く)

できるだけ電気・水を節約、エコな商品を使い、食人残しをへらし、シャンプーの使う量をへらしたり、大人になったら、電気自動車や太陽光発電機をつけたり、地球にやさしい行動

をします!

・「地球市民宣言」発表資料

### 人や国の不平等


をなくすために私は、

- ① みんなのちがいをみとめあう。
- ② こま、ている人がいたら声をかけて助けてあげること

を宣言します。

### 大量のごみを減らすために私は、


- ① 食品ロスを減らすことと、ものを長く大切に使うことをしていきたいです。
- ② 3Rをすること、必要な物だけ買う、食品ロスを減らす、ものを長く大切に使うということをしていきたいです。



を宣言します。

### 質の高い教育をみんなにをたすけるためにわたしは

- ① 今の世界の課題を他人事ではなく自分との関わりをいろんな人につたえます!
- ② しょうらい学校にいけないうちの子供がいる国にいてそこで子どもが学校にいけるかんきょうをくつきたいです!

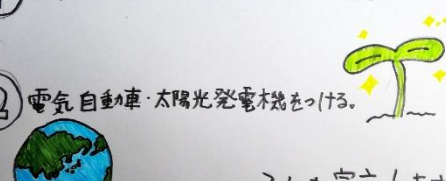


を宣言します。

### 気候変動を防ぐために

わたしは

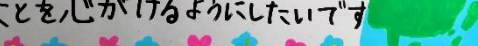
- ① エネルギーの使用量と食人残しをへらす。
- ② 電気自動車・太陽光発電機をつける。



を宣言します。

### 飢餓や食品ロスも減らすために私は、

- ① できるだけ食べ残しをしないことと、必要以上のものを買わずに、3Rを守ります。そして、
- ② 私はむだなものをだすずに環境に良く、そして人にいいわくをかける生活をするを心がけるようにしたいです。

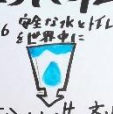


を宣言します。

### 世界みんなが安全な水を使うために私は

- ① 節水を心がけ
- ② 水をあまりよごさない洗剤を買ったりして、地球汚染しないように

にします!



本実践を行った6年生は、国際理解に関する学習に取り組んだ経験がほとんどなく、世界で起きていることやSDGsに対して、「自分とは関係ない」という考えの児童がほとんどだった。実際に、第1時「世界がもし100人の村だったら」のふりかえりでは、



	<p>「かわいそう」や「自分は幸せ」、「初めて知った」などと、どこか他人事な意見が多かった。しかし第 2 時で、同年代のカンボジアの子どもが仕事をしている様子や児童労働に関わる輸入品について知ること、世界で起きていることが自分と無関係ではないと捉える様子がうかがえた。第 4 時以降は自分の関心のある問題について調べ、最終的には各々が調べたことに対して「自分はこうありたい」「こんなことを心がけていきたい」という思いを持ち「地球市民宣言」という形で表現することができた。</p>
<p>16. 授業者による自由記述</p>	<p>小学生の子どもたちにとって、自分ごと、他人事以前に「知る」ことが大前提であると感じた。まずは、身の回りだけでなく、広い視野を持ち、世界で起こる様々な出来事や世界の現状を知ることが大切である。教員として日々の学習から教科に関わらず子どもたちが「知る」ことを意識し続けなければならないと感じた。知ることで考え、行動することにつながる。それを踏まえて国際理解教育では、「考える」に子どもたちがフォーカスできる授業をしたい。今回、子どもたちが課題に対して地球に生きる一人として考えをもつことの難しさをこの実践で感じる事ができた。これからも学び続け、世界の出来事を自分ごととして捉え、地球に生きるみんなのために行動できる子どもを育てていきたい。</p>

参考資料：

- ・開発教育協会 「世界がもし 100 人の村だったら」
- ・JICA 資料 「僕ら地球調査隊 学校に行けない世界の子どもたち」
- ・JICA 資料 「学校にいきたい！」

# 世界に目を向けよう

～地球市民の一員として～

②

## 単元目標

世界の課題に対して  
 ・自分が今できること  
 ・将来やりたいこと  
 を考え、  
 「地球市民宣言」をしよう!

## SDGs SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4 質の高い教育を  
みんなに



2枚の写真を見て、  
思ったことをシェアしよう



8月17日(木)  
朝9時ごろ  
カンボジア  
@市場



8月17日(木)  
朝8時ごろ  
カンボジア  
@道路わきの  
ゴミ捨て場

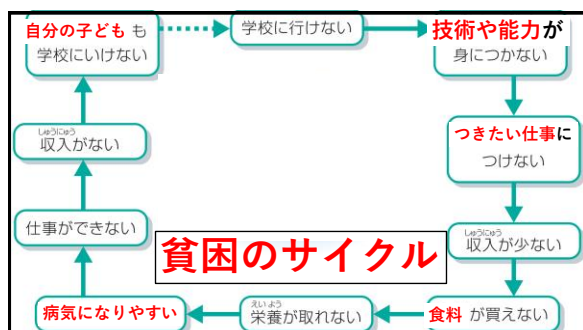
めあて

子どもたちが学校に行けない  
原因について考えよう。

学校に行けないと、

学校に行けないと  
に関わるかもしれない・・・

- **文字の読み書きができない**  
(本や手紙、注意書きなどが読めない、自分の名前が書けない…など)
- **計算ができない**  
(値段や給料をだまされてしまう…など)
- **必要な知識が得られない**  
(栄養や安全な水に関する知識を知らないままになってしまう…など)
- **恥ずかしい思いをすることも**  
(字が読めないことを伝えるのは、つらいこと…)



世界中の子どもたちのうち、  
約 % (約 人) が  
学校に通えていない。

## どうして学校へ行けないの？

キーワード① 家族

キーワード② お金

キーワード③ 差別

キーワード④ 設備

### ① 弟や妹の世話



弟や妹の世話をしなくてはならない

5人、10人と兄弟がいて両親のかわりにめんどうをみなくてはならず、学校に行く時間がない。

### ② 仕事をしないといけない



家計を助けなくてはならない

農業などの家の仕事を手伝ったり、外に働きにでなければならない。

### ③ 先生がいな



先生がいらない

先生を育てる仕組みが整っていないところや、国が貧しくて先生に給料が払えないところもある。

### ④ 学校が近くにない



学校が近くにない

学校が遠すぎて通えないところがある。また、学校はあっても勉強机や教室が足りないところもある。

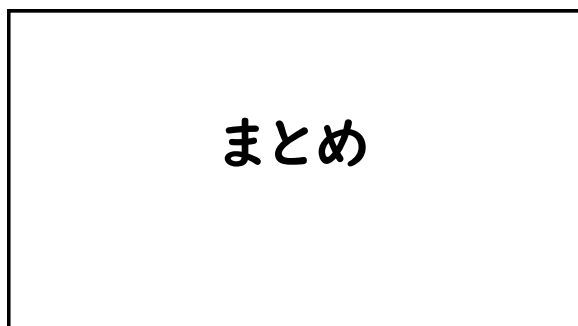
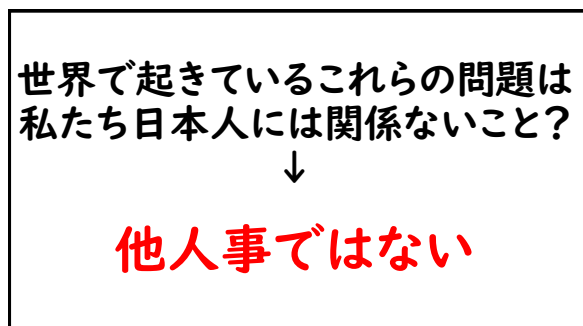
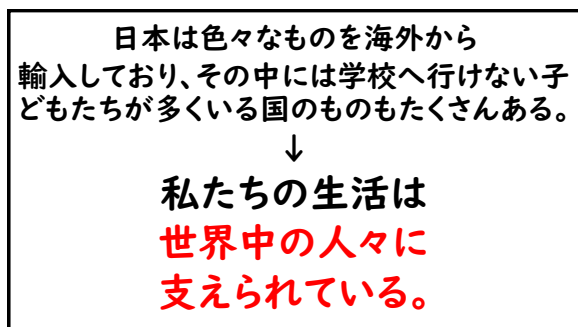
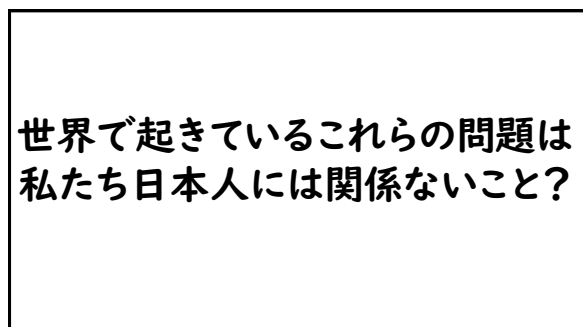
### ⑤ 家族が行かせてくれない (特に女の子)



家族が行かせてくれない

子どもを学校に行かせるくらいなら働かせたほうがまだと考えている親もいる。また、女の子には教育は必要ないという考え方から、学校に行かせてもらえないこともある。





- 世界中の子どもたちのうち、約**20%** (約**6100万人**)が学校に通えていない。
- 学校に通えない原因は**貧困**や**戦争**など様々である。
- これらの問題は**日本**や**世界**の人々の生活と関係している。

## ふりかえり

